

《担当者名》 川添 恵理子 e-kawa@hoku-iryo-u.ac.jp 竹生 礼子 増田 悠佑 朝日まどか(Ⅷ)

【概要】

在宅療養者とその家族を単位とした援助を理解し、援助に必要な在宅看護過程の展開方法を体験的に学ぶ。

【学修目標】

1. 事例をもとに在宅療養者とその家族を単位とした継続看護マネジメントの基本的な考え方・方法を身につける。
2. 事例をもとに在宅療養者と家族に対する看護過程と展開方法を理解し、家族を単位とした援助に必要な視点をもつことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	在宅療養者とその家族を単位とした援助(1)	療養者と家族の移行における意思決定支援	川添・竹生・増田
2	在宅療養者とその家族を単位とした援助(2)	療養者と家族の移行を支援する継続看護マネジメント	川添・竹生・増田
3	在宅療養者とその家族を単位とした援助(3)	療養者と家族の移行を支援する継続看護マネジメント 特定機能病院における入退院支援・入退院調整の実際	奥山亜由子(特別講師) 川添
4	継続看護マネジメント(1)	継続看護マネジメント：退院支援・退院調整の計画立案 療養者及び家族の主体的な意思決定を支援するためのアセスメント	川添・竹生・増田
5	継続看護マネジメント(2)	継続看護マネジメント：退院支援・退院調整の計画立案 療養者及び家族の主体的な意思決定を支援するためのチーム医療・多職種連携	川添・竹生・増田
6	継続看護マネジメント(3)	継続看護マネジメント：退院支援・退院調整の計画立案 ロールプレイ(A)	川添・竹生・増田・朝日
7	継続看護マネジメント(4)	継続看護マネジメント：退院支援・退院調整の計画立案 ロールプレイ(A)の振り返り・ディスカッション	川添・竹生・増田・朝日
8	継続看護マネジメント(5)	継続看護マネジメント：退院支援・退院調整の計画立案 ロールプレイ(A)の振り返り実践記録・評価	川添・竹生・増田
9	訪問看護計画と評価(1)	訪問看護計画の立案 生活の場で療養する本人と家族を単位とした計画の立案	竹生・川添・増田
10	訪問看護計画と評価(2)	訪問看護計画の立案 社会資源の活用や多職種との連携をふまえた計画の立案	竹生・川添・増田
11	訪問看護計画と評価(3)	訪問看護計画の実際 自宅での訪問看護ロールプレイ(B)	竹生・川添・増田・朝日
12	訪問看護計画と評価(4)	訪問看護計画の実際 自宅での訪問看護ロールプレイ(B) 振り返り・ディスカッション	竹生・川添・増田・朝日
13	訪問看護計画と評価(5)	訪問看護場面の評価 自宅での訪問看護ロールプレイ(B)の記録	竹生・川添・増田
14	継続看護マネジメント(6)	療養者と家族の移行を支援する継続看護マネジメント (トランジェクトリ)	川添・竹生・増田
15	在宅看護過程 まとめ	在宅看護の実際：在宅看護学実習の報告	川添・竹生・増田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		在宅看護過程のまとめ・試験対策・FD	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

提出物：「継続看護マネジメント記録」「個別援助計画（訪問看護計画と評価）」40%

定期試験60%

【教科書】

櫻井尚子・渡部月子・臺有桂：ナースンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア。メディカ出版，2019
スーディ神崎和代編：在宅看護学講座。ナカニシヤ出版，2019

【参考書】

押川真喜子監修：写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ。インターメディカ
家族看護実践センター編：臨床での家族支援 1 ベットサイドでの関係づくり。日本看護協会出版会 2011。
家族看護実践センター編：臨床での家族支援 2 個人面接での関係づくり。日本看護協会出版会 2011。
家族看護実践センター編：臨床での家族支援 3 複数面接での関係づくり。日本看護協会出版会 2011。
長江弘子編著：生活と医療を統合する継続看護マネジメント。医歯薬出版。2014。
正野逸子他編：関連図で理解する在宅看護過程。メヂカルフレンド社。2018。
上田泉編著：在宅看護過程演習。クオリティケア。2016。

【備考】

Googleformやワークシートを使用した出席確認および、授業内容の理解度の確認を行う

【学修の準備】

ワークシート、事例の看護計画立案、グループディスカッション、ロールプレイを通して学習を進めていく。
授業の前に、2年次で学んだ講義の資料、教科書の該当部分、他科目の教科書の共通部分の確認をしておく（予習30分）。
授業後は、学んだことを自分のノート、配布資料・教科書を読み返して確認し、自分の知識・技術を強化する（復習30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実務経験】

川添恵理子（看護師・保健師・訪問看護師・退院支援看護師・地域看護専門看護師・介護支援専門員）
竹生礼子（看護師・保健師・訪問看護師・介護支援専門員）
増田悠佑（看護師・訪問看護師・外来看護師）
朝日まどか（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関・訪問看護事業所などの実務経験で身につけた知識・技術・援助姿勢をいかし、実践で活用できる演習を行う。